

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1853年7月8日	嘉永6年6月3日		ペリー率いるアメリカ艦隊が浦賀に来航				
1853年8月22日	嘉永6年7月18日		ブチャーチン率いるロシア艦隊が長崎に来航				
1853年10月17日	嘉永6年9月15日			大船建造禁止令が解禁			
1854年2月1日	嘉永7年1月4日			水戸藩が石川島にて造船起工			
1854年2月11日	嘉永7年1月14日		ペリー再度浦賀に来航				
1854年3月31日	嘉永7年3月3日		日米和親条約（神奈川条約）調印				
1854年6月5日	嘉永7年5月10日			西洋形船・鳳凰丸完成			
1855年2月7日	安政元年12月21日		日露和親条約調印				
1855年12月3日	安政2年10月24日				長崎にてオランダ海軍伝習が開始（～1859年3月13日）		
1856年3月17日	安政3年2月11日		蕃書調所が設置				
1857年5月4日	安政4年4月11日				軍艦教授所が設置		
1857年6月26日	安政4年閏5月5日		日米約定（下田条約）調印				
1857年10月10日	安政4年8月23日			長崎製鉄所起工			
1858年7月29日	安政5年6月19日		日米修好通商条約調印（後に蘭・露・英・仏とも通商条約調印）				
1858年8月	安政5年7月	安政大獄が行われる					
1858年8月16日	安政5年7月8日		外国奉行が設置				
1859年6月28日	安政6年5月28日		箱館・神奈川・長崎での自由貿易が布達				
1859年10月	安政6年9月				P&O汽船（イギリス）により上海―長崎間航路開設		
1860年2月4日	安政7年1月13日	万延遣米使節が品川を出港（6月24日品川帰港）			軍艦奉行並・木村喜毅ら搭乗の咸臨丸が太平洋横断に成功		
1860年3月24日	安政7年3月3日	桜田門外の変が起こる					
1861年3月13日	万延2年2月3日	対馬事件が起こる					
1861年5月2日	文久元年3月23日		各国に開港・開市延期が通達される				
1861年5月4日	文久元年3月25日			長崎製鉄所落成			
1862年1月22日	文久元年12月23日	竹内遣欧使節が品川を出港（1863年1月30日品川帰港）					
1862年5月14日	文久2年4月16日	薩摩藩が率兵上京					
1862年5月23日	文久2年4月25日			松平康正・岡部長常・服部常純・立田正明を製鉄所掛に任命			
1862年9月14日	文久2年8月21日		生麦事件が起こる				
1862年11月2日	文久2年9月11日	幕府オランダ留学生在が長崎を出港					
1863年6月6日	文久3年4月20日	攘夷期日が6月25日と定められる					
1863年6月25日	文久3年5月10日		下関事件が起こる				
1863年8月15日	文久3年7月2日		薩英戦争が起こる				
1863年9月30日	文久3年8月18日	八・一八政変が起こる					
1864年2月6日	文久3年12月29日	池田遣欧使節が横浜を出港（8月23日横浜帰港）					
1864年3月10日	元治元年2月3日			江戸幕府が横須賀製鉄所長ヴェルニー、横浜製鉄所長ドロートルの服務規定書を裁可			
1864年6月	元治元年5月				勝安房の提言により神戸海軍操練所開設		
1864年8月19日	元治元年7月18日	禁門の変が起こる					
1864年8月24日	元治元年7月23日	長州藩追討の命が下される（第1次幕長戦争）					
1864年9月	元治元年8月			横浜製鉄所起工、肥田浜五郎をオランダへ派遣			
1864年9月5日	元治元年8月5日		米英仏蘭艦隊が下関を占領				
1864年12月8日	元治元年11月10日			幕府がロッシュに製鉄所設立の斡旋を依頼			
1864年5月	元治元年4月				P&O汽船（イギリス）により上海―横浜間航路開設		
1865年2月	慶応元年1月			ヴェルニー来日、横須賀製鉄所設立の約定書をロッシュに手交			
1865年5月19日	慶応元年4月25日	柴田遣仏使節が横浜を出港（1866年3月12日横浜帰港）		柴田剛中、製鉄所設立談判のため渡欧			
1865年9月17日	慶応元年7月28日	幕府ロシア留学生在が箱館を出港					
1865年9月18日	慶応元年7月29日			幕府とフランス政府がヴェルニーの雇用契約を締結			
1865年10月13日	慶応元年8月24日			横浜製鉄所竣工			
1865年11月15日	慶応元年9月27日			横須賀製鉄所の起工式挙行			
1865年10月	慶応元年9月				フランス郵船により上海―横浜間航路開設		
1865年11月22日	慶応元年10月5日		条約勅許・兵庫開港不可の勅書が下される				
1866年1月8日	慶応元年11月22日						ヴェルニーが燈台の建設を柴田剛中に進言
1866年5月21日	慶応2年4月7日		日本人の海外渡航が解禁				
1866年6月25日	慶応2年5月13日		改税約書調印				改税約書に船舶安全のための燈台・浮標の設置が明記される

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1866年7月18日	慶応2年6月7日	幕府が長州藩領に侵攻（第2次幕長戦争）					
1866年11月9日	慶応2年10月3日			フランス人技師52名来日			
1866年11月24日	慶応2年10月18日			ゴートランが横浜製鉄所長に就任			
1866年12月2日	慶応2年10月26日	幕府イギリス留学生が横浜を出港					
1867年1月30日	慶応2年12月25日	孝明天皇崩御					
1867年2月3日	慶応2年12月29日			一色直温を製鉄所奉行、古賀謹一郎を奉行並に任命			
1867年2月13日	慶応3年1月9日	睦仁親王践祚（1868年10月12日即位）					
1867年2月15日	慶応3年1月11日	バリ万博参加のため、徳川昭武一行が横浜を出港（1868年12月6日神奈川帰港）					
1867年2月	慶応3年1月				太平洋郵船により、サンフランシスコー横浜ー香港間航路開設		
1867年3月	慶応3年2月				P&O汽船（イギリス）、上海ー横浜間航路を廃止		
1867年4月7日	慶応3年3月3日			横須賀製鉄所第一号船渠（ドック）着工			
1867年6月15日	慶応3年5月13日			ルッサンが横浜製鉄所長に就任			
1867年6月	慶応3年5月				太平洋郵船により横浜ー上海間の航路開設		
1867年11月9日	慶応3年10月14日	大政奉還					
1868年1月1日	慶応3年12月7日				兵庫（神戸）開港		
1868年1月3日	慶応3年12月9日	王政復古政変（幕府の廃止、総裁・議定・参与の設置）					
1868年1月27日	慶応4年1月3日	鳥羽伏見の戦いが起こる（戊辰戦争の勃発）					
1868年2月10日	慶応4年1月17日	三職七科制が定められる（外国事務科など7科の設置）					
1868年2月25日	慶応4年2月3日	三職八局制が定められる（外国事務局など8局の設置）					
1868年4月6日	慶応4年3月14日	五箇条の御誓文					
1868年5月22日	慶応4年閏4月1日			横浜裁判所総督・東久世通禧が横須賀製鉄所および横浜製鉄所を接管、外国事務局判事・寺島宗則、井関盛良をその主管に任じる			
1868年6月11日	慶応4年閏4月21日	政体書が布告される（太政官制の確立、外国官など8官の設置）					
1868年9月3日	慶応4年7月17日	江戸が東京に改称					
1868年10月23日	明治元年9月8日	明治と改元					
1869年2月11日	明治2年1月1日						観音崎燈台点灯（ルイ・フェリックス・フロラン設計）
1869年3月	明治2年				フランス汽船により香港ー横浜間航路開設		
1869年4月18日	明治2年3月7日	明治天皇が東京に行幸（～5月9日）					
1869年5月19日	明治2年4月8日	民部官が設置					
1869年6月	明治2年5月		浜殿石室（後の延遠館）が落成		P&O汽船により香港ー横浜間航路開設		
1869年6月22日	明治2年5月13日	議政官が廃止					
1869年6月27日	明治2年5月18日	箱館五稜郭が開城（戊辰戦争の終結）					
1869年7月1日	明治2年5月22日	弾正台が設置					
1869年7月25日	明治2年6月17日	版籍奉還					
1869年7月	明治2年				太平洋郵船、横浜ー函館間航路開設		
1869年8月15日	明治2年7月8日	職員令が布告される（外務省など2官6省の設置）	開拓使設置				
1869年9月16日	明治2年8月11日	民蔵合併（民部省・大蔵省の人事兼任）					
1869年9月20日	明治2年8月15日		蝦夷地が北海道に改称				
1869年	明治2年9月						燈明台局を民部省・大蔵省に移管
1869年11月30日	明治2年10月27日			横浜製鉄所と横須賀製鉄所が大蔵省の管轄となる			
1869年12月25日	明治2年11月23日				駅遞寮が国内郵便輸送の一部を太平洋郵船に委託		
1869年12月	明治2年11月				開拓使が太平洋郵船と郵便送送契約を締結		
1870年1月16日	明治2年12月15日					東京（鉄砲洲運上所）ー横浜（横浜裁判所）間電信開設	
1870年1月20日	明治2年12月19日						野島崎燈台点灯（ルイ・フェリックス・フロラン設計）

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1870年1月					岩崎弥太郎により土佐藩所有の汽船3艘を以て、九十九商会（のちの三菱商会）設立		
1870年2月3日	明治3年1月3日	大教宣布の詔が発せられる					
1870年	明治3年1月				日本最初の汽船会社・廻漕会社設立		
1870年3月14日	明治3年2月13日		榑太開拓使設置				
1870年4月20日	明治3年3月20日						品川燈台点灯（ルイ・フェリックス・フロラン設計）
1870年4月28日	明治3年3月29日			技術伝習のため横須賀製鉄所内に鑛舎設立			
1870年5月7日	明治3年4月7日			伝習生制度再開			
1870年5月18日	明治3年4月18日			民部権大丞・山尾庸三を製鉄所の事務総括に任命			
1870年7月8日	明治3年6月10日						櫻野崎燈台点灯（リチャード・ヘンリー・ブラントン設計）
1870年7月8日	明治3年6月10日						潮岬燈台点灯（紀伊半島南端、本点灯は1873年9月15日）
1870年8月6日	明治3年7月10日	民蔵分離（民部省・大蔵省の機構分離）				民部省と大蔵省を分離。電信事務は民部省所管となる	
1870年8月9日	明治3年7月13日			製鉄所が民部省の管轄となる			
1870年9月7日	明治3年8月12日						城ヶ島燈台点灯（相模国城ヶ島西端）
1870年9月20日	明治3年8月25日					大北電信会社が日本政府より、長崎―上海間・長崎―ウラジオストク間・長崎―横浜間の海底電線布設の許可を得る	
1870年	明治3年8月					大阪―神戸間電信開設	
1870年	明治3年10月		上海に仮領事館開設				
1870年11月24日	明治3年閏10月2日		外務省に弁務使が設置				
1870年12月12日	明治3年閏10月20日			工部省が設置		電信事務は工部省所管となる	
1870年12月15日	明治3年閏10月23日			横須賀製鉄所・横浜製鉄所が工部省の管轄となる	長崎製鉄所において最初の国産汽船・瓊浦丸製造		
1871年1月1日	明治3年11月11日						神子元島燈台点灯（リチャード・ヘンリー・ブラントン設計）
1871年	明治3年11月			工部少丞・肥田浜五郎を製鉄所事務総括に任命			
1871年2月11日	明治3年12月22日	海外留学生規則が定められる					
1871年3月1日	明治4年1月11日						剣埼燈台点灯（東京海湾口剣埼）
1871年	明治4年1月				明治政府が三井会社の手代・吹島四郎兵衛に命じて廻漕会社の汽船および業務のすべてを継承させて廻漕取扱所を設立		
1871年3月28日	明治4年2月8日			横須賀製鉄所に第一号船渠（ドック）竣工			
1871年	明治4年3月					工部省に伝信機掛設置	
1871年5月25日	明治4年4月7日			横須賀製鉄所を横須賀造船所に、横浜製鉄所を横浜製作所に、長崎製鉄所を長崎造船所に改称			
1871年6月14日	明治4年4月27日						江崎燈台点灯（淡路島北端、リチャード・ヘンリー・ブラントン設計）
1871年	明治4年4月					大北電信会社により、海底電線・上海―厦門―香港線開通	
1871年6月27日	明治4年5月10日	新貨条例が布告される					
1871年8月4日	明治4年6月18日					大北電信会社により、海底電線・長崎―上海線開通。長崎―上海―香港を經由しヨーロッパ・アメリカと通信開始	
1871年7月					岩崎弥太郎が土佐藩所有の汽船6艘および曳船・舢舨・帆船等を譲り受け三菱商会を設立し、本店を大阪に、支店を東京に置く		
1871年8月24日	明治4年7月9日	刑部省・弾正台の廃止に伴い、司法省が設置					
1871年8月29日	明治4年7月14日	廃藩置県					
1871年8月					明治政府は各藩より引き上げたすべての汽船および廻漕取扱所の汽船を合わせて日本帝国郵便蒸気船会社を設立し、東京・大阪間定期航路、函館・石巻間不定期航路、沖縄航路を命じる		
1871年9月2日	明治4年7月18日	文部省が設置					
1871年9月11日	明治4年7月27日	民部省が廃止					
1871年9月12日	明治4年7月28日	兵部省に陸軍部・海軍部・参謀局が設置					
1871年9月13日	明治4年7月29日	三院制が定められる（正院・左院・右院の設置）	日清修好条規調印				

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1871年9月14日	明治4年7月30日						伊王島燈台点灯（長崎港口伊王島北端、リチャード・ヘンリー・ブラントン設計）
1871年9月21日	明治4年8月7日		榑太開拓使を廃止し開拓使榑太支庁に改編				
1871年9月22日	明治4年8月8日	神祇官が神祇省に改組					
1871年9月23日	明治4年8月9日					東京―長崎間電信線布設着工	
1871年9月29日	明治4年8月15日			肥田為良（旧名浜五郎）が造船製作頭に就任			
1871年10月5日	明治4年8月21日						石室崎燈台点灯（伊豆国石室崎）
1871年11月19日	明治4年10月7日			平岡通義が造船権頭に就任			
1871年11月31日	明治4年10月18日						佐多岬燈台点灯（大隅国南端小岩島、リチャード・ヘンリー・ブラントン設計）
1871年12月16日	明治4年11月5日		外務省に領事職（総領事ほか）が設置				
1871年12月23日	明治4年11月12日	岩倉使節団が横浜を出港					
1872年1月1日	明治4年11月21日					大北電信会社により、海底電線・長崎―ウラジオストク線開通。長崎―ウラジオストク経由アジア・ヨーロッパ・アメリカと通信開始	六連島燈台点灯（下関海峡西口六連島、リチャード・ヘンリー・ブラントン設計）
1872年2月9日	明治5年1月1日					日本―中国間の公衆電報の取扱開始、シベリア・ヨーロッパロシアを経由してヨーロッパと、大西洋を経由してアメリカ・カナダと電報やり取りが可能となる	
1872年3月1日	明治5年1月22日						部崎燈台点灯（下関海峡東口、リチャード・ヘンリー・ブラントン設計）
1872年4月5日	明治5年2月28日	兵部省の廃止に伴い、陸軍省・海軍省が設置		横須賀造船所と横浜製作所が海軍省の所管、長崎造船所は工部省の所管となる			
1872年4月21日	明治5年3月14日	神祇省の廃止に伴い、教部省が設置					
1872年	明治5年6月		草梁倭館（釜山）の日本人が東萊に侵入、朝鮮政府が倭館を撤廃し日本との国交を一時中断	横須賀造船所最初の軍艦・清輝竣工			友ヶ島燈台点灯（紀伊国友ヶ島西端、リチャード・ヘンリー・ブラントン設計）
1872年	明治5年6月						弁天島燈台点灯（根室港口弁天島）
1872年	明治5年7月						納沙布崎燈台点灯（根室国納沙布崎東端）
1872年9月5日	明治5年8月3日	学制が布告される					
1872年10月1日	明治5年8月29日						天保山燈台点灯（安治川口砲台、リチャード・ヘンリー・ブラントン設計）
1872年10月1日	明治5年8月29日						和田岬燈台点灯（神戸港西南和田岬、リチャード・ヘンリー・ブラントン設計）
1872年10月15日	明治5年9月13日				新橋―横浜間鉄道開業		
1872年10月16日	明治5年9月14日		琉球国王尚泰が琉球藩王に任命（琉球藩の設置）、太政官により琉球藩の外交権接收、外務省琉球藩出張所開設				
1872年	明治5年9月					横浜―長崎間電信線布設着工	
1872年11月14日	明治5年10月14日		弁務使の廃止に伴い、公使（特命全権公使ほか）が設置				
1872年11月16日	明治5年10月16日		在福州領事館開設	横須賀造船所と横浜製作所が海軍省主船寮の管轄となり、横浜製作所は横浜製造所に改称			
1872年12月28日	明治5年11月28日	徴兵告諭が布告される					
1872年	明治5年11月						鍋島燈台点灯（塩飽瀬戸鍋島、リチャード・ヘンリー・ブラントン設計）
1872年	明治5年12月			横浜製造所が海軍省から大蔵省駅通寮に移管される			
1872年	明治5年		南千島諸島を千島国として開拓使根室支庁の管轄とする				
1873年1月1日	明治6年1月1日	太陽暦が開始					
1873年2月5日	明治6年2月5日			鏡舎新築落成			
1873年2月	明治6年2月					東京―長崎間・横浜―長崎間電信線完成	
1873年4月	明治6年4月		在香港領事館開設				安乗崎燈台点灯（志摩国の矢港口）
1873年5月2日	明治6年5月2日	太政官制潤飾の実施（正院の権限強化など）					
1873年6月	明治6年6月						釣島燈台点灯（伊予国興居島西方、リチャード・ヘンリー・ブラントン設計）

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1873年7月	明治6年7月						菅島燈台点灯（志摩国鳥羽港口菅島、リチャード・ヘンリー・プラントン設計）
1873年7月28日	明治6年7月28日	地租改正条例が布告される					
1873年8月13日	明治6年8月13日					大日本政府電信取扱規則制定	
1873年9月13日	明治6年9月13日	岩倉使節団が横浜に帰港					
1873年9月	明治6年9月						潮岬燈台点灯（紀伊国潮岬）
1873年9月	明治6年9月						白洲燈台点灯（下関海峡西口藍ノ島南西の低洲）
1873年10月	明治6年10月	征韓論政変が起こる					
1873年11月10日	明治6年11月10日	内務省が設置					
1873年	明治6年				招商局（清国）による上海—長崎—神戸間航路開設		
1873年	明治6年				太平洋郵船による横浜支店設置		
1874年1月17日	明治7年1月17日	民撰議院設立建白書が提出される					
1874年2月6日	明治7年2月6日		台湾出兵が閣議決定				
1874年2月	明治7年2月	佐賀の乱が起こる	在清国公使館開設。在上海総領事館開設		佐賀の乱に際し三菱商會が輸送役務に従事		
1874年4月5日	明治7年4月5日		陸軍省内に蕃地事務局設置				
1874年4月	明治7年4月		在厦門領事館開設		台湾出兵に際し三菱商會が輸送役務に従事。台湾出兵終結後、汽船13艘を三菱商會に交付		
1874年5月22日	明治7年5月22日		台湾に征討軍上陸				
1874年5月	明治7年5月						御前崎燈台点灯（駿河湾の西角）
1874年6月18日	明治7年6月18日	陸軍省に参謀局が設置					
1874年7月4日	明治7年7月4日				造船所取締規則制定		
1874年10月27日	明治7年10月27日				遠藤秀行が造船所長官に就任		
1874年10月31日	明治7年10月31日		日清両国間互換条約調印				
1874年10月	明治7年10月					東京—青森間電信線架設工事竣工。本州—北海道間の連絡完成	
1874年11月	明治7年11月						犬吠崎燈台点灯（下総国犬吠崎、リチャード・ヘンリー・プラントン設計）
1874年12月	明治7年12月		清朝と和議を結び台湾より撤兵				
1874年	明治7年		琉球藩の管轄が外務省から内務省に移管され、内務省の在琉球藩出張所が設置される				
1874年	明治7年		釜山に管理官を置く				
1875年1月10日	明治8年1月10日		蕃地事務局廃止				
1875年2月11日	明治8年2月11日	大阪會議が開催（地方官會議設置を決定）					
1875年3月	明治8年3月		開拓使庁内に屯田事務局設置				羽根田燈台点灯（東京湾羽根田洲の外）
1875年4月14日	明治8年4月14日	漸時立憲政体樹立ノ詔勅が布告される（左院・右院の廃止、元老院・大審院の設置）					
1875年5月7日	明治8年5月7日		樺太千島交換条約調印、北千島諸島が日本領となる				
1875年6月28日	明治8年6月28日	新聞紙条例・讒謗律が制定される					
1875年6月	明治8年6月					日本帝国郵便汽船会社解散、所有する汽船18艘を三菱商會に交付	
1875年8月21日	明治8年8月21日		日本軍艦・雲揚号が江華島付近で武力示威行動を行い、永宗島に上陸して住民を殺害（雲揚号事件）				
1875年8月	明治8年8月				横浜製造所から横浜製鉄所に再度改称され、岩崎弥太郎経営の三菱商會に貸し渡される。		鳥帽子島燈台点灯（沓岐水道東口鳥帽子島）
1875年9月	明治8年9月		在天津総領事館開設		三菱商會が郵便航送を引き受けるに当たり郵便汽船三菱会社と改称		
1875年9月15日	明治8年9月15日				明治政府が第一命令書により郵便汽船三菱会社に郵便運送を命じる		
1875年9月20日	明治8年9月20日		江華島事件が起こる				
1875年10月	明治8年10月		日本の軍艦が釜山に來航し武力示威行動を行う		郵便汽船三菱会社により太平洋郵船の横浜—上海航路買収。同時に横浜—函館間航路も郵便汽船三菱会社の運営となる		
1875年10月	明治8年10月				太平洋郵船、神戸航路撤退		
1875年11月	明治8年11月				三菱商船学校（東京商船学校の前身）設立		
1875年12月31日	明治8年12月31日			横須賀造船所長・ヴェルニー解雇			
1876年1月28日	明治9年1月28日						

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1876年2月26日	明治9年2月26日			ヴェルニーが創業以来の報告書を提出			
1876年2月27日	明治9年2月27日		日朝修好条規調印				
1876年3月13日	明治9年3月13日			ヴェルニー帰国			
1876年3月28日	明治9年3月28日	廃刀令が布告される		主船大師・稲垣喜多造が海軍省へ『造船事務要略』を献上			
1876年3月	明治9年3月		在牛荘領事館開設				角島燈台点灯（長門国角島の北西端）
1876年3月	明治9年3月						リチャード・ヘンリー・ブラントン解雇
1876年4月1日	明治9年4月1日		在コルサコフ領事館開設				
1876年5月	明治9年5月		在芝罘領事館開設				
1876年5月13日	明治9年5月13日				郵便汽船三菱会社による神戸—芝罘—天津—牛荘（營口）線開始（月1回の運航）。数ヶ月で廃止。		
1876年6月12日	明治9年6月12日		在ウラジオストク貿易事務館開設				
1876年8月5日	明治9年8月5日	金禄公債証書発行条例が布告される					
1876年8月24日	明治9年8月24日		日朝修好条規付録款調印				
1876年9月	明治9年9月			最初の民営造船所である石川島平野造船所設立	第二命令書により、郵便汽船三菱会社に対し、横浜—上海線、東京—横浜—大阪—神戸線、東京—函館線、東京—横浜—新潟線、東京—四日市線、長崎—釜山線の開設を命じる		
1876年10月	明治9年10月	熊本・福岡・山口にて士族反乱が起こる（神風連の乱・秋月の乱・萩の乱）			郵便汽船三菱会社により、長崎—五島—対馬—釜山線開設		尻矢崎燈台点灯（津軽海峡東口、リチャード・ヘンリー・ブラントン設計）
1876年11月	明治9年11月						金華山燈台点灯（陸前国金華山南東端、リチャード・ヘンリー・ブラントン設計）
1877年1月11日	明治10年1月11日	教部省が廃止					
1877年1月18日	明治10年1月18日	正院が廃止					
1877年1月30日	明治10年1月30日	西南戦争が起こる（～9月24日）	釜山港居留地借入約書締結				
1877年1月	明治10年1月			長崎造船所を長崎工作分局に改称（工部省）			
1877年2月	明治10年2月				西南戦役に際し郵便汽船三菱会社が輸送役務に従事、新たに汽船10艘を購入		新潟燈台点灯（新潟港）
1877年9月	明治10年9月						堺燈台点灯（和泉国堺港中波止場）
1877年9月	明治10年9月						島原燈台点灯（島原湾島原港口）
1877年10月	明治10年10月		日本代理公使・花房義質が朝鮮赴任				伏木港燈台（伏木港射水川口）
1877年	明治10年		内務省小笠原島出張所設置		三井物産上海支店開設		
1878年3月	明治11年3月					東京電信中央局設置。日本における外国電報取扱が大北電信会社より完全に日本政府に移管される	
1878年3月	明治11年3月					万国電信公法による国際電報の正式業務開始	
1878年5月	明治11年5月						木津川燈台点灯（大阪木津川口）
1878年10月	明治11年10月			横浜製鉄所が内務省から海軍省に移管される			
1878年11月	明治11年11月		日本代理公使・花房義質が軍艦を率いて釜山に来航し税関撤廃を要求				
1878年12月5日	明治11年12月5日	陸軍省参謀局の廃止に伴い、参謀本部が設置					
1878年12月19日	明治11年12月19日		朝鮮政府が日本の圧力に屈して収税を中止				
1879年1月	明治12年1月					日本が万国電信条約に加盟	
1879年4月4日	明治12年4月4日	琉球藩の廃止に伴い、沖縄県が設置（琉球処分）					
1879年8月30日	明治12年8月30日		清朝北洋大臣・李鴻章が朝鮮政府に西欧列強との通商を勧告、元山開港を約する七ヶ条協定調印				
1879年9月29日	明治12年9月29日	教育令が布告される					
1879年10月	明治12年10月				郵便汽船三菱会社による自営航路・横浜—香港線開始		
1879年12月30日	明治12年12月30日			横浜製造所を10年間平野富二に貸与することを決定			
1879年12月	明治12年12月						大瀬崎燈台点灯（五島列島福江島南西端）
1879年	明治12年				民間有志により函館商船学校、大阪商船学校設立		
1880年2月	明治13年2月		在釜山領事館開設。在元山領事館開設				
1880年3月	明治13年3月				郵便汽船三菱会社により、神戸—下関—長崎—五島—対馬—釜山—元山線開設		

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1880年3月5日	明治13年3月5日	会計検査院が設置					
1880年3月17日	明治13年3月17日	国会期成同盟が結成					
1880年4月5日	明治13年4月5日	集会条例が布告される					
1880年4月	明治13年4月		在京城公使館開設	イギリス人ハンターにより大阪鉄工所設立			
1880年5月1日	明治13年5月1日				元山津開港。釜山線が釜山經由元山線に改編される		
1880年5月	明治13年5月						口之津燈台点灯（島原湾口口之津港）
1880年7月	明治13年7月		在厦門領事館廃止				
1880年11月5日	明治13年11月5日			工場払下概則公布			
1880年	明治13年				郵便汽船三菱会社、横浜—香港航路の神戸寄港開始		
1880年	明治13年				東京風帆船会社設立が計画されるが開業に至らず、のち共同運輸会社に合併となる		
1881年1月	明治14年1月				大阪府が私立大阪商船学校を収用して府立大阪商船学校に改編		
1881年2月	明治14年2月				郵便汽船三菱会社により神戸—釜山經由元山線が延伸され、ウラジオストク線に改編される		
1881年3月	明治14年3月						薩ノ尾島燈台点灯（長崎港薩尾島北端）
1881年4月7日	明治14年4月7日	農商務省が設置					
1881年5月	明治14年5月				郵便汽船三菱会社により、仁川航路開設		
1881年7月21日	明治14年7月21日	開拓使官有物払下が閣議決定					
1881年7月	明治14年7月						立石埼燈台点灯（越前国敦賀湾口）
1881年10月11日	明治14年10月11日	明治14年の政変が起こる					
1881年10月12日	明治14年10月12日	国会開設之勅諭					
1881年10月18日	明治14年10月18日	自由党が結党					
1881年10月21日	明治14年10月21日	参事院が設置					
1881年12月	明治14年12月						鷹島燈台点灯（呼子港口鷹島）
1881年	明治14年				招商局による台湾—厦門航路、台湾—福州航路開設		
1881年	明治14年				P&O汽船（イギリス）、横浜—香港航路の長崎寄港開始		
1882年	明治15年				P&O汽船（イギリス）、横浜—香港間航路の神戸寄港開始		
1882年	明治15年				郵便汽船三菱会社、横浜—香港航路を神戸—香港航路に改定		
1882年1月4日	明治15年1月4日	軍人勅諭が発せられる					
1882年2月8日	明治15年2月8日	開拓使が廃止。函館県・札幌県・根室県設置。開拓使廃止に伴い、屯田事務局を陸軍省へ移管					
1882年3月18日	明治15年3月18日	立憲帝政党が結党					
1882年4月16日	明治15年4月16日	立憲改進黨が結党					
1882年4月19日	明治15年4月19日		在仁川領事館（仮庁舎）開設				
1882年4月	明治15年4月				三菱商船学校を改編して官立とし東京商船学校と改称		
1882年7月23日	明治15年7月23日		朝鮮武衛營の軍兵が暴動を起こし日本公使館を襲撃、日本人教官を殺害（壬午軍乱）				
1882年7月	明治15年7月				渋沢栄一らを発起人として共同運輸会社設立、東京風帆船会社・北海道運輸会社・越中風帆船会社を合併		
1882年8月30日	明治15年8月30日		壬午軍乱の損害賠償を含む清物浦条約調印				
1882年10月	明治15年10月					第一回海底電信保護万国連合会議開催（パリ）	
1882年11月28日	明治15年11月28日	福島事件が起こる（～12月1日）					
1883年1月12日	明治16年1月12日		仁川港開港				
1883年1月29日	明治16年1月29日	農商務省に北海道事業管理局が設置される					
1883年3月3日	明治16年3月3日					日本朝鮮間海底電線約定調印。日本政府より大北電信会社に対し長崎—釜山間海底電線の布設を許可	
1883年3月20日	明治16年3月20日	高田事件が起こる					
1883年4月	明治16年4月				共同運輸会社開業		
1883年4月	明治16年4月				北海道庁が私立函館商船学校を収用して公立に改編		
1883年6月	明治16年6月						龍頭埼燈台点灯（土佐国浦戸港口）

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1883年7月	明治16年7月						禄剛崎燈台点灯（能登国禄剛崎）
1883年7月7日	明治16年7月7日	鹿鳴館が落成					
1883年7月24日	明治16年7月24日			横浜製造所が石川島に移転			
1883年9月	明治16年9月			長崎工作分局を長崎造船局に改称（工部省）			
1883年10月24日	明治16年10月24日					大北電信会社により、長崎－上海間・長崎－ウラジオストク間の海底電線一条増設	
1883年10月	明治16年10月						博多燈台点灯（筑前国博多港）
1883年11月23日	明治16年11月23日					大北電信会社により、呼子－志岐－対馬－釜山間海底電線開通	
1884年2月	明治17年2月					日本政府が釜山に電信局を設け、大北電信会社布設による日本－朝鮮間海底電線を使用して電報取扱開始	
1884年3月	明治17年3月					日本が海底電線保護万国連合条約に加入	
1884年5月1日	明治17年5月1日				大阪商船会社開業		
1884年5月13日	明治17年5月13日	群馬事件が起こる					
1884年5月24日	明治17年5月24日			横須賀造船所官制公布			
1884年6月10日	明治17年6月10日			工部卿から太政官へ長崎造船局の民間依託を建議			
1884年6月12日	明治17年6月12日			三菱の岩崎弥太郎が「長崎造船局拝借願」を工部卿へ提出（同年6月23日認許）			
1884年6月24日	明治17年6月24日			三菱へ長崎造船局の「貸渡条約書」を下付			
1884年6月26日	明治17年6月26日		日朝修好通商条約調印				
1884年6月	明治17年6月			横須賀造船所の第二船渠が完成			
1884年7月7日	明治17年7月7日	華族令が制定される		民営の長崎造船所発足			
1884年7月21日	明治17年7月21日			第二船渠（ドック）開業式挙行			
1884年8月	明治17年8月						鞍崎燈台点灯（日向国大島南端）
1884年9月23日	明治17年9月23日	加波山事件が起こる					
1884年10月29日	明治17年10月29日	自由党が解党					
1884年10月31日	明治17年10月31日	秩父事件が起こる					
1884年12月4日	明治17年12月4日		朝鮮で甲申政変勃発、日本と清朝による派兵				
1884年12月15日	明治17年12月15日			横須賀鎮守府設置。横須賀造船所が横須賀鎮守府の管轄となり、「海軍造船所条例」（1884年12月15日制定）に基づき、海軍専用の造船所となる			甲ノ浦燈台点灯（土佐国安芸郡甲浦港）
1885年1月9日	明治18年1月9日		漢城条約調印				
1885年4月18日	明治18年4月18日		天津条約調印				
1885年5月18日	明治18年5月18日		在漢口領事館開設				
1885年5月	明治18年5月		屯田事務局を屯田兵本部へ改称				
1885年7月	明治18年7月						贛崎燈台点灯（伊勢国津市岩田川口）
1885年9月	明治18年9月				政府の命令により郵便汽船三菱会社と共同運輸会社を合併し、日本郵船会社設立		宗谷岬燈台点灯（北見国宗谷岬北端）
1885年10月	明治18年				日本郵船会社開業		
1885年10月	明治18年				フランス郵船、横浜－香港間航路の神戸寄港開始		
1885年11月23日	明治18年11月23日	大阪事件が起こる					
1885年12月22日	明治18年12月22日	内閣官制が定められる。第1次伊藤博文内閣が成立。工部省・参事院が廃止、通信省が設置、宮内省が閣外となる			管船局を農商務省から新設の通信省へ移管	電信局を工部省から新設の通信省に移管	燈台局を工部省から新設の通信省に移管
1885年12月23日	明治18年12月23日	内閣法制局設置					
1885年12月	明治18年						葛登支岬燈台点灯（函館港口西側）
1886年1月26日	明治19年1月26日	北海道庁が設置					
1886年2月2日	明治19年2月2日			海軍省が技術指導者としてベルタンを雇入			
1886年2月	明治19年2月				日本郵船会社による長崎－仁川－芝罘－天津航路開設		
1886年3月18日	明治19年3月18日	参謀本部に陸軍部・海軍部が設置					
1886年5月	明治19年5月			官有の兵庫造船局を川崎正蔵に貸し下げ、川崎造船所開設			
1886年6月12日	明治19年6月12日	静岡事件が起こる					
1886年6月	明治19年6月						三津浜燈台点灯（伊予国三津浜港）
1886年8月	明治19年8月						四日市燈台点灯（伊勢国四日市港）
1887年4月	明治20年4月				浅野総一郎により浅野廻漕部（のちの東洋汽船会社）設立		
1887年6月2日	明治20年6月2日	監軍が設置					

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1887年6月7日	明治20年6月7日			長崎造船所を三菱へ払下、三菱長崎造船所設立			
1887年10月	明治20年10月	大同団結・三大事件建白運動					
1887年12月26日	明治20年12月26日	保安条例が制定される					
1887年	明治20年						
1888年4月30日	明治21年4月30日	黒田清隆内閣が成立。枢密院設置					
1888年4月	明治21年4月				函館商船学校および大阪商船学校を官立に改編し通信省直轄とする		
1888年8月	明治21年8月						神威岬燈台点灯（後志国神威岬）
1888年9月	明治21年9月				横浜築港着工		白神岬燈台点灯（津軽海峡西口白神岬）
1888年10月10日	明治21年10月10日						航路標識条例制定
1888年12月6日	明治21年12月6日		在広東領事館開設				
1889年2月10日	明治22年2月10日		在シンガポール領事館開設				
1889年2月11日	明治22年2月11日	大日本帝国憲法発布					
		皇室典範が制定される					
1889年3月9日	明治22年3月9日	海軍省に海軍参謀部が設置					
1889年3月	明治22年3月				日本郵船会社による上海—芝罘—仁川—釜山—元山—ウラジオストク航路、神戸—下関—長崎—釜山—天津航路、神戸—下関—長崎—五島列島—対馬—ウラジオストク航路、神戸—長崎—仁川—天津航路開設		
1889年5月	明治22年5月			横須賀海軍造船所が廃止となり、横須賀鎮守府造船部・造船工学校に改編			
1889年6月	明治22年6月						襟裳岬燈台点灯（日高国襟裳岬）
1889年9月	明治22年9月				日本郵船会社による小樽—下関—神戸航路開設		福山燈台点灯（福山港弁天島）
1889年9月	明治22年9月						鷗島燈台点灯（江差港鷗島）
1889年11月	明治22年11月			石川島平野造船所を株式組織に改め有限責任石川島造船所と改称			
1889年12月24日	明治22年12月24日	第1次山県有朋内閣が成立					
1890年2月1日	明治23年2月1日			ベルタン解雇			
1890年3月	明治23年3月						三角燈台点灯（肥後国三角港口）
1890年7月1日	明治23年7月1日	第1回衆議院選挙					
1890年7月	明治23年7月				大阪商船会社による大阪—釜山航路開設		
1890年10月20日	明治23年10月20日	元老院が廃止					
1890年10月30日	明治23年10月30日	教育勅語が発せられる					
1890年10月	明治23年10月						落石崎燈台点灯（根室国落石崎）
1890年11月25日	明治23年11月25日	第1回帝国議会開催					
1890年11月	明治23年11月						花咲燈台点灯（根室国花咲港）
1890年11月	明治23年11月						厚岸燈台点灯（厚岸湾口大黒島）
1890年11月	明治23年11月						恵山岬燈台点灯（津軽海峡東口恵山岬）
1890年12月	明治23年12月						弁慶岬燈台点灯（寿都港西角）
1890年12月	明治23年12月						増毛燈台点灯（天塩国増毛港）
1891年3月18日	明治24年3月18日					日本政府が大北電信会社より呼子—対馬間の海底電線買収	
1891年3月27日	明治24年3月27日			海軍造兵廠条例公布			
1891年5月6日	明治24年5月6日	第1次松方正義内閣が成立					
1891年5月11日	明治24年5月11日		大津事件が起こる				
1891年5月	明治24年5月			渋沢栄一らを発起人として横浜船渠会社設立、船舶修繕業務に従事	通信省が函館商船学校と大阪商船学校を東京商船学校の分校に改編		
1891年5月	明治24年5月			呉鎮守府造船部が操業開始			
1891年8月28日	明治24年8月28日		在漢口領事館廃止				
1891年9月	明治24年9月		在福州領事館廃止				釧路崎燈台点灯（釧路泊地知人鼻）
1891年11月	明治24年11月						幌泉燈台点灯（日高国幌泉）
1891年11月	明治24年11月						浦河燈台点灯（日高国浦河）
1891年11月	明治24年11月						室蘭燈台点灯（室蘭港口大黒島）
1891年12月	明治24年12月						稲穂岬燈台点灯（奥尻島北端）
1892年1月	明治25年1月						石狩燈台点灯（石狩河口西岸）
1892年2月15日	明治25年2月15日	第2回衆議院選挙（政府による選挙干渉）					
1892年5月	明治25年5月	貴族院・衆議院にて選挙干渉をめぐる問責決議					計羅武威崎燈台点灯（千島国国後島南端）

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1895年	明治28年			榎本武揚・安田善次郎・大蔵喜八郎らを発起人として浦賀船渠会社設立（1900年開業）	日本郵船会社が上海ーウラジオストク間航路を香港まで延長		
1895年	明治28年				大阪商船会社により大阪ー山陰ー北陸ー北海道航路開設		
1896年2月29日	明治29年2月29日				横浜ーシンガポールーボンベイ航路につき、インド・タタ商會が離脱し日本郵船会社単独運航となる		
1896年2月	明治29年2月						第三海堡燈台点灯（東京湾第三海堡）
1896年3月23日	明治29年3月23日		在沙市領事館開設	造船奨励法公布（1896年10月1日施行）	航海奨励法公布（1896年10月1日施行）		
1896年3月30日	明治29年3月30日						台湾総督府燈台所官制公布（1896年4月1日施行）。清国が建設した燈台2基（漁翁島燈台・鷺壘鼻燈台）および導燈1基（淡水）、燈竿1基（安平）が台湾総督府燈台所の管轄となる
1896年3月31日	明治29年3月31日		拓殖務省が設置				
1896年3月	明治29年3月		在厦門領事館再設置		日本郵船会社により陸軍御用船航路であった神戸ー門司ー基隆間を貨客航路として航行開始		
1896年3月	明治29年3月				日本郵船会社によるヨーロッパ航路開設		
1896年4月	明治29年4月				浅野廻漕部が東洋汽船会社設立のため解散		横浜東水堤燈台点灯（横浜港東水堤突端）
1896年4月	明治29年4月				台湾総督府内地台湾航路命令により、大阪商船会社が神戸ー鹿児島ー奄美大島ー沖繩ー基隆間、神戸ー下関ー長崎ー鹿児島ー沖繩ー基隆間航路を受命		
1896年4月1日	明治29年4月1日		大本營復員				
1896年4月1日	明治29年4月1日		在蘇州領事館開設				
1896年4月10日	明治29年4月10日					海底電線布設船・沖繩丸竣工（グラスゴー・ロブニツ社製）	
1896年5月	明治29年5月				白岩龍平により大東新利洋行設立、上海ー蘇州間の航路開設		横浜北水堤燈台点灯（横浜港北水堤突端）
1896年7月8日	明治29年7月8日				渋沢栄一・浅野総一郎の発起により東洋汽船会社設立（1898年開業）		
1896年7月21日	明治29年7月21日		日清通商航海条約調印				
1896年8月	明治29年8月				日本郵船会社による香港ー横浜ーハワイーシアトル航路開設	鹿児島大浜ー奄美大島ー沖繩島間の海底電線布設	
1896年9月18日	明治29年9月18日	第2次松方内閣が成立					
1896年9月27日	明治29年9月27日		杭州居留地取極書締結				
1896年10月	明治29年10月			株式会社川崎造船所成立	日本郵船会社による横浜ーアデレード間航路開設		
1896年10月	明治29年10月				日本郵船会社による横浜ーメルボルン間航路開設		
1896年10月	明治29年10月				日本政府の命令に基づき、新潟ーウラジオストク間、函館ーコルサコフ間航路を特定助成航路として大家七平（大家商船合資会社）が受命（1904年3月廃止）		
1896年11月	明治29年11月			渋沢栄一らを発起人として函館船渠会社設立			曾津高崎燈台点灯（奄美大島西端）
1896年11月	明治29年11月						津堅島燈台点灯（琉球国中城湾口）
1896年11月	明治29年11月						先原崎燈台点灯（那覇港口）
1896年11月	明治29年11月						釣掛崎燈台点灯（薩摩国下飯島南端）
1896年	明治29年			舞鶴鎮守府造船部が操業開始			
1896年	明治29年			呉海軍造船兵廠設置			
1897年1月	明治30年1月				大東新利洋行による上海ー杭州間航路開設		屋久島燈台点灯（大隅国屋久島北西端）
1897年2月	明治30年2月						鼻頭角燈台点灯（台湾北岸鼻頭角）
1897年3月4日	明治30年3月4日		蘇州居留地取極書締結				
1897年3月31日	明治30年3月31日		在シャム公使館開設				
1897年3月	明治30年3月						伊江島燈台点灯（琉球国伊江島西端）
1897年3月	明治30年3月						掛塚燈台点灯（遠江国天竜川口東岸）
1897年4月	明治30年4月						富基角燈台点灯（台湾北端富基角）
1897年4月	明治30年4月						長崎鼻燈台点灯（長島海峡長島南西端）
1897年4月	明治30年4月						戸島燈台点灯（長島海峡戸島東端）

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1897年4月	明治30年4月						上馬刀島燈台点灯（肥後国天草下島の南島上馬刀島）
1897年5月21日	明治30年5月21日			海軍造船廠条例公布、これにより1897年3月27日公布の同条例は廃止。横須賀鎮守府造船部を横須賀海軍造船廠に改称			
1897年5月30日	明治30年5月30日					沖縄島—石垣島—台湾淡水間の海底電線布設	
1897年7月	明治30年7月				日本郵船会社、および大阪商船会社による神戸—門司—基隆航路開始		
1897年7月	明治30年7月				台湾総督府が伊万里汽船会社に命じていた基隆—安平間航路を廃止し、大阪商船会社に東沿岸航路および西沿岸航路の開設を命令		
1897年8月	明治30年8月						金石燈台点灯（加賀国上金石町字日和山）
1897年9月1日	明治30年9月1日		拓殖務省の廃止に伴い、内閣に台湾事務局を再設置				
1897年9月2日	明治30年9月2日		内務省に北海道局設置				
1897年9月3日	明治30年9月3日			海軍造船廠条例公布（1897年10月8日施行）。横須賀鎮守府造船部は横須賀海軍造船廠に改称され、造船科・造機科・兵器部が置かれる			
1897年10月	明治30年10月		在鎮南浦領事館開設。在木浦領事館開設		大阪港築港着工（1907年3月竣工）		
1897年10月	明治30年10月				日本政府により上海—漢口間、漢口—宜昌間航路の開設を命令し、大阪商船会社が受命		
1898年1月12日	明治31年1月12日	第3次伊藤内閣が成立					
1898年1月22日	明治31年1月22日	教育総監部が設置					
1898年1月	明治31年1月				大阪商船会社により上海—漢口間航路開設		
1898年2月20日	明治31年2月20日		台湾事務局が内閣から内務省に移管される				
1898年3月	明治31年3月				大阪商船会社による神戸—沖縄—打狗（高雄）間航路開設		
1898年4月	明治31年4月			長崎三菱造船所により日本最大の汽船・常陸丸建造			
1898年5月	明治31年5月						馬島燈台点灯（浜田港口馬島）
1898年5月	明治31年5月						戸馳島燈台点灯（肥後国戸馳島南端）
1898年6月30日	明治31年6月30日	大隈重信内閣が成立					
1898年8月	明治31年8月		在福州分館開設				
1898年9月	明治31年9月				大東新利洋行が大東汽船合資会社に改組		
1898年10月11日	明治31年10月11日		在漢口領事館再設置				
1898年10月22日	明治31年10月22日		内務大臣官房台湾課設置				
1898年11月1日	明治31年11月1日	内務大臣官房北海道課設置					
1898年11月8日	明治31年11月8日	第2次山県内閣が成立					
1898年11月	明治31年11月						地藏崎燈台点灯（出雲国美保湾北西角）
1898年11月	明治31年11月						入道崎燈台点灯（羽後国男鹿半島北端）
1898年12月	明治31年12月				東洋汽船会社による香港—横浜—サンフランシスコ間航路開始	淡水—福建省川石山間の海底電線を清国から買収	経ヶ岬燈台点灯（丹後国経ヶ岬）
1899年1月	明治32年1月				大阪商船会社による漢口—宜昌間航路開始		飾磨燈台点灯（播磨国飾磨港西波止場）
1899年4月28日	明治32年4月28日		福州居留地取極書締結				
1899年4月	明治32年4月				大阪商船会社による大阪—鎮南浦航路開設		平館燈台点灯（陸奥海灣口明神崎）
1899年4月	明治32年4月						室戸崎燈台点灯（土佐国室戸崎）
1899年5月18日	明治32年5月18日	第1回万国平和会議が開催					
1899年5月	明治32年5月		在群山分館開設				
1899年7月	明治32年7月				日本政府の命令により日本郵船会社が横浜—アントワープ間航路開設		
1899年8月10日	明治32年8月10日		在平壤分館開設				
1899年8月	明治32年8月		在城津分館開設			国後島—択捉島間の海底電線布設	
1899年9月	明治32年9月					稚内—利尻島—礼文島間の海底電線布設	
1899年10月25日	明治32年10月25日		廈門居留地取極書締結				
1899年11月	明治32年11月						安渡移矢岬燈台点灯（千島国国後島北東端）
1899年11月	明治32年11月						梶取崎燈台点灯（紀伊国梶取崎）
1899年12月	明治32年12月						塩屋崎燈台点灯（磐城国塩屋崎）
1900年3月10日	明治33年3月10日	治安警察法が公布					

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1900年4月	明治33年4月				大東汽船合資会社が株式会社大東汽船に改組		基隆燈台点灯（基隆港口）
1900年4月	明治33年4月				台湾総督府により基隆—香港間、高雄—広東間の航路開設が命令され、大阪商船会社が受命		三重城燈台点灯（那覇港）
1900年5月20日	明治33年5月20日	内務省総務局北海道課設置	内務省総務局台湾課設置	海軍兵器廠条例施行。横須賀・佐世保・舞鶴の造船廠兵器部が兵器廠として独立			
1900年6月	明治33年6月				港湾調査会設置		
1900年9月	明治33年9月					根室—国後島間の海底電線布設	
1900年10月1日	明治33年10月1日				大阪商船会社による神戸—長崎—釜山—鎮南浦間航路開設		
1900年10月19日	明治33年	第4次伊藤内閣が成立					
1900年10月	明治33年10月					北海道苫前—焼尻島—天売島間に海底電線布設	
1900年10月	明治33年10月					北海道平田内—奥尻島間に海底電線布設	
1900年10月	明治33年10月					青森県—本木—北海道木古内間に海底電線布設	
1900年12月	明治33年12月						稚内燈台点灯（北見国野寒岬）
1901年1月	明治34年1月						白沙岬燈台点灯（台湾北西岸白沙岬）
1901年2月	明治34年2月		在南京分館開設				
1901年4月	明治34年4月				大阪商船会社により、大阪—馬山—群山—仁川航路開設		
1901年4月	明治34年4月				大東汽船会社による蘇州—杭州間航路開設		
1901年4月	明治34年4月				逓信省が東京商船学校の函館分校・大阪分校を廃止し、地方の所管に戻す		
1901年6月2日	明治34年6月2日	第1次桂太郎内閣が成立					
1901年7月	明治34年7月						関崎燈台点灯（豊後水道北口の西側地蔵崎）
1901年9月7日	明治34年9月7日		北京議定書（義和団事件最終議定書）調印				
1901年9月24日	明治34年9月24日		重慶居留地取極書締結				
1901年11月	明治34年11月						韓国における燈台建設のため、内閣が石橋純彦を派遣
1901年	明治34年			備後船渠会社設立	神戸港築港着工（1902年竣工）		
1902年1月30日	明治35年1月30日		第一回日英同盟協約調印				
1902年3月	明治35年3月						鮎崎燈台点灯（陸中国鮎崎）
1902年4月	明治35年4月						大浜燈台点灯（来島海峡南口）
1902年5月1日	明治35年5月1日			浦賀船渠会社が石川島造船所浦賀分工場を買収			
1902年5月17日	明治35年5月17日		馬山居留地取極書締結				
1902年5月	明治35年5月				加藤正義らの発起により湖南汽船会社設立、漢口—湘潭間航路開設		
1902年9月1日	明治35年9月1日				大阪商船会社により、大阪—元山航路開設		
1902年12月	明治35年12月					アメリカによりサンフランシスコ—ホノルル間太平洋横断海底電線布設	
1902年	明治35年				大阪商船会社による横浜—神戸—宇品—門司—長崎—基隆—澎湖島—安平—打狗（高雄）航路開設		
1902年	明治35年				JCL社（オランダ）によるジャワ—日本航路開設		
1902年	明治35年				大東汽船会社による蘇州—鎮江間航路開設		
1903年3月1日	明治36年3月1日				港湾調査会廃止		
1903年4月	明治36年4月				三井物産会社船舶部設置		クダコ島燈台点灯（伊予灘怒和島の東方クダコ島）
1903年4月	明治36年4月						日ノ岬燈台点灯（出雲国日ノ岬）
1903年6月	明治36年6月				日本郵船会社がジョージ・マクベン会社（上海）を買収、上海—漢口間航路開始	アメリカによりホノルル—ミッドウェー間海底電線布設	
1903年8月	明治36年8月						若松燈台点灯（筑前国若松港突堤の先端）
1903年11月6日	明治36年11月6日			海軍工廠条例制定。横須賀鎮守府・呉鎮守府・佐世保鎮守府・舞鶴鎮守府に、造船廠・兵器廠（造兵廠）を統合した海軍工廠を設置			
1903年11月	明治36年11月				日本海命令航路が大家商船会社と大阪商船会社の共同運航となる		
1904年1月8日	明治37年1月8日		日本の連合艦隊が旅順港外でロシア艦隊を攻撃				

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1904年1月9日	明治37年1月9日		日本の連合艦隊が仁川沖でロシア軍艦2隻を撃破				
1904年1月	明治37年1月					佐世保―大連間の海底電線布設	
1904年2月10日	明治37年2月10日		日本とロシアが相互に宣戦布告（日露戦争の開戦）				
1904年2月23日	明治37年2月23日		日韓議定書調印				
1904年2月	明治37年2月					対馬卒土浜―巨済島―漆原半島間の海底電線布設	
1904年3月	明治37年3月						小那沙美島燈台点灯（広島湾小那沙美島）
1904年3月	明治37年3月						姫島燈台点灯（豊後国姫島東端）
1904年3月	明治37年3月						水ノ子島燈台点灯（豊後水道中央水ノ子島）
1904年8月22日	明治37年8月22日		第一次日韓協約調印				
1904年9月17日	明治37年9月17日		在汕頭分館開設				
1904年9月	明治37年9月	屯田兵条例廃止				山口県角島―沖ノ島―対馬間の海底電線布設	
1904年11月	明治37年11月						名古屋港燈台点灯（尾張国名古屋港西突堤端）
1904年12月	明治37年12月					対馬尾崎―巨済島間海底電線布設	
1904年	明治37年		在長沙分館開設				
1905年1月	明治38年1月				大阪商船会社による神戸―大連航路開設		
1905年1月	明治38年1月				日本郵船会社による小樽―コルサコフ間航路開設		
1905年3月	明治38年3月						福浦燈台点灯（能登国福浦港口）
1905年4月1日	明治38年4月1日		在長沙分館を在長沙領事館に改編				
1905年4月	明治38年4月						五島白瀬燈台点灯（肥前国五島列島平島の西方白瀬岩上）
1905年4月	明治38年4月						若宮燈台点灯（豊後国若宮島の北端）
1905年4月	明治38年4月						沖島燈台点灯（対馬海峡東水道沖島の頂上）
1905年5月	明治38年5月					東京―グアム間海底電線のうち川崎―父島間の布設工事に着手	
1905年7月29日	明治38年7月29日		桂・タフト協定成立				
1905年7月	明治38年7月			三菱神戸造船所設立（1906年6月開業）		北海道猿払―樺太能登呂間の海底電線布設	
1905年7月	明治38年7月					稚内坂ノ下―樺太海馬島―アレクサンドロフスク間の海底電線布設	
1905年8月12日	明治38年8月12日		第二回日英同盟協約調印				
1905年9月5日	明治38年9月5日	日比谷焼き打ち事件が起こる	日露講和条約（ポーツマス条約）調印				
1905年9月	明治38年9月					日本政府とアメリカ商業太平洋電信会社との間で東京―グアム間海底電線の布設・運用に関する約定締結	
1905年10月5日	明治38年10月5日		日露講和条約批准			ドイツによりヤップ島―上海間の海底電線布設	
1905年10月	明治38年10月				日本郵船会社による横浜―高雄間貨物航路開始		
1905年11月17日	明治38年11月17日		第二次日韓協約調印				
1905年11月	明治38年11月					松江―鬱陵島―元山間の海底電線布設	
1905年12月2日	明治38年12月2日		外交官・領事館官制改正（大使・大使館の設置）				
1905年12月21日	明治38年12月21日		統監府設置、在韓国各領事館を統監府理事庁に改編				
1905年12月22日	明治38年12月22日		満洲に関する日清条約調印				
1905年12月	明治38年12月				東洋汽船会社による香港―横浜―サンフランシスコ―チリ間航路開始		
1905年12月	明治38年12月				大阪商船会社による大阪―大連間、大阪―安東間、大阪―牛荘（營口）―天津間、大阪―ウラジオストク間航路開始		
1906年1月7日	明治39年1月7日	第1次西園寺公望内閣が成立					
1906年4月	明治39年4月				日本郵船会社により函館―大泊（コルサコフ）間航路開設		
1906年4月	明治39年4月				大阪商船会社による神戸―大連間航路開設		
1906年5月1日	明治39年5月1日		在安東領事館開設				
1906年5月	明治39年5月				日本郵船会社による香港―バンコク間航路開設		
1906年6月1日	明治39年6月1日		在奉天総領事館開設				

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1906年6月	明治39年6月					東京―グアム間海底電線のうち 川崎―父島間竣工	大阪南突堤燈台点灯（大阪港 南突堤の尖端）。大阪北突堤 燈台点灯（大阪港北突堤の尖 端）
1906年8月1日	明治39年8月1日		関東都督府が設置				
1906年8月	明治39年8月					海底電線布設船・小笠原丸竣工	
1906年8月	明治39年8月					小笠原島父島―母島間に海底電 線布設	
1906年9月20日	明治39年9月20日		在鉄嶺分館開設				
1906年10月	明治39年10月					大島―新島―三宅島―八丈島間 に海底電線布設	土々呂港燈台（日向国東臼杵 郡土々呂港）
1906年11月15日	明治39年11月15日		在長春分館・在新民府分館開 設				
1906年11月26日	明治39年11月26日		南満洲鉄道株式会社設立				
1907年3月3日	明治40年3月3日		在ハルビン総領事館開設				
1907年3月10日	明治40年3月10日		在吉林領事館開設				
1907年3月15日	明治40年3月15日		樺太庁が設置				
1907年3月	明治40年3月					日本郵船会社・大阪商船会 社・大東汽船会社・湖南汽船 会社の長江航路を合併して日 清汽船会社設立、漢口―常往 間、九江―南昌間、鎮江―清 江間を新規に航路開設	
1907年4月1日	明治40年4月1日		内務大臣官房樺太課設置				
1907年4月	明治40年4月					大阪商船会社により、敦賀― ウラジオストク間、小樽―ウ ラジオストク間航路開設	
1907年6月24日	明治40年6月24日			内務省の管轄下に港湾調査会 再設置			
1907年7月24日	明治40年7月24日		第三次日韓協約調印				
1907年7月30日	明治40年7月30日		第一回日露協約調印				
1907年7月	明治40年7月					青森磯野―函館大森浜間の海底 電線布設	
1907年7月	明治40年7月					樺太久春内一名寄―真岡―海馬 島間の海底電線布設	
1907年9月28日	明治40年9月28日		在南京分館を在南京領事館に 改編				
1907年10月30日	明治40年10月30日		在汕頭分館を在汕頭領事館に 改編				
1907年11月10日	明治40年11月10日		在長春分館を在長春領事館に 改編				
1908年4月	明治41年4月						三池港燈台点灯（島原海湾三 池港北突堤端）
1908年7月14日	明治41年7月14日	第2次桂内閣が成立					
1908年7月	明治41年7月					東洋汽船会社による南米航路 中止	小樽港燈台点灯（小樽港防波 堤端）
1908年9月10日	明治41年9月10日		在鉄嶺分館を在鉄嶺領事館、 在遼陽出張所を在遼陽領事館 に改編				
1908年10月	明治41年10月					日清電信協定締結、大連―芝罘 間の海底電線を共同で布設す ることを決定	
1908年12月5日	明治41年12月5日	内閣に鉄道院設置					
1908年12月18日	明治41年12月18日		東洋拓殖会社が設立				
1909年3月	明治42年3月					日本郵船会社による香港―タ コマ間航路開設	
1909年4月	明治42年4月					東洋汽船会社による南米航路 再開	
1909年4月	明治42年4月					大阪商船会社による内地―樺 太間航路開設	
1909年6月	明治42年6月					大連―芝罘間海底電線布設	三宅島燈台点灯（伊豆国三宅 島）
1909年7月6日	明治42年7月6日		対韓施設大綱が閣議決定				
1909年7月	明治42年7月						屋島燈台点灯（伊予灘屋島の 南端）
1909年8月	明治42年8月						稲取燈台点灯（伊豆国賀茂郡 稲取の北東方）
1909年9月4日	明治42年9月4日		間島協約、満洲五案件に関す る協約調印				
1909年9月	明治42年9月						彭佳嶼燈台点灯（台湾北岸の 洋中彭佳嶼）
1909年10月1日	明治42年10月1日		在漢口領事館を在漢口総領事 館に改編				
1909年10月1日	明治42年10月1日		在ウラジオストク貿易事務館 を在ウラジオストク総領事館 に改編				
1910年1月	明治43年1月					東洋汽船会社による横浜―パ ルパライソ間航路開設	
1910年1月	明治43年1月					大阪商船会社により、長崎― 鎮南浦間、長崎―大連間航路 開設	
1910年5月	明治43年5月						神島燈台点灯（伊良湖水道神 島の北東端）
1910年5月	明治43年5月						細島燈台点灯（日向国細島）
1910年6月22日	明治43年6月22日		内閣拓殖局設置				

西暦	和暦	内政	外政	工業	航路	電信	燈台
1910年6月	明治43年6月						台東燈台（卑南燈台）点灯（台湾東岸台東）
1910年7月4日	明治43年7月4日		第二回日露協約調印				
1910年8月22日	明治43年8月22日		韓国併合条約調印				
1910年10月1日	明治43年10月1日		朝鮮總督府設置				
1910年10月	明治43年10月					長崎県茂木—台湾淡水間の海底電線布設	
1910年11月	明治43年11月					日本政府が大北電信会社より対馬—釜山間の海底電線を買収	
1911年2月21日	明治44年2月21日		日米新通商航海条約調印（関税自主権の回復）				
1911年3月	明治44年3月						小島燈台点灯（志摩国小島）
1911年4月	明治44年4月				大阪商船会社による高雄—上海間、香港—福州間航路開設		
1911年5月	明治44年5月					巨文島—朝鮮興陽半島間の海底電線布設	岩内港燈台点灯（後志国岩内港防波堤端）
1911年7月13日	明治44年7月13日		第三回日英同盟協約調印				
1911年8月30日	明治44年8月30日	第2次西園寺内閣が成立					
1911年8月	明治44年8月						叶崎燈台点灯（土佐国叶崎）
1911年8月	明治44年8月						東吉嶼燈台点灯（澎湖列島東吉嶼上）
1911年10月	明治44年10月				日本郵船会社による横浜—神戸—門司—上海—香港—シンガポール—ペナン—ラングーン—カルカッタ間航路開設		
1912年1月	明治45年1月						特牛燈台点灯（長門国豊浦郡特牛）
1912年2月	明治45年2月						大連港燈台点灯（大連港東防波堤北端）
1912年3月2日	明治45年3月2日				朝鮮郵船会社設立（1912年4月1日開業）、門司—雄基間、木浦—鎮南浦間、釜山—木浦間航路開設		
1912年3月	明治45年3月					山口県吉見—朝鮮岩南間の海底電線布設	清水燈台点灯（清水港外出鼻）
1912年7月8日	明治45年7月8日		第三回日露協約調印				
1912年7月30日	大正元年7月30日	明治天皇崩御により嘉仁親王踐祚（1915年11月10日即位）、大正と改元					
1912年7月	大正元年7月					日本政府が大北電信会社と交渉し日中間の通信料金を合併計算することを条件に長崎—上海間海底電線布設の同意を得る	
1912年12月21日	大正元年12月21日	第3次桂内閣が成立					
1912年	明治45年				台湾總督府による淡水—香港航路開設命令、大阪商船会社が受命		
1912年	明治45年				台湾總督府による高雄—大連航路開設命令、大阪商船会社が受命		